

## 【1】 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したもとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。  
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。

※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## 【2】 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)	
	(円)	騰落率(%)
当月末	11,915	-
過去1ヵ月	11,702	1.82
過去3ヵ月	11,788	1.08
過去6ヵ月	11,779	1.15
過去1年	12,536	-4.95
過去3年	10,263	16.10
設定日来	10,000	19.15

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。

※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## 【3】 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	11,915	11,702	+213
純資産総額 (百万円)	27,500	26,598	+902

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	13,385	2022年1月4日
設定来安値	8,735	2020年3月19日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。

※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

## 【4】 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2022/11/15	0
2021/11/15	0
2020/11/16	0
2019/11/15	0
2018/11/15	0
-	-
設定来合計	0

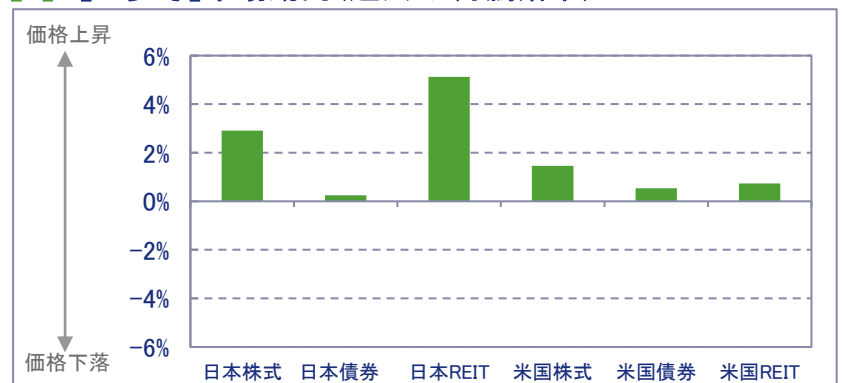
※ 1万口当たりの実績です。

## 【5】 運用資産構成比率

	ファンド	基本配分 比率	差異
日本株式	16.7%	16.7%	-0.0%
日本債券	16.6%	16.7%	-0.1%
日本REIT	16.9%	16.7%	0.2%
米国株式	16.6%	16.7%	-0.1%
米国債券	16.6%	16.7%	-0.1%
米国REIT	16.6%	16.7%	-0.1%
合計	100.0%	100.0%	-

※ 比率は対組入マザーファンド評価額比です。

## 【6】 【ご参考】市場動向(過去1ヵ月騰落率)



※過去1ヵ月の騰落率は各市場の参考指数の騰落率であり、組入資産の騰落率とは異なります。

また、米国株式・米国国債・米国REITは、現地通貨ベースでの騰落率です。

(出所) 日本株式: 日経平均株価、日本債券: NOMURA-BPI国債インデックス、日本REIT: 東証REIT指数(配当込み)、米国株式: S&P500指数(ドルベース)、米国債券: FTSE米国国債インデックス(ドルベース)、米国REIT: S&P米国REITインデックス(配当込み・ドルベース)

## 【1】 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したもとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。  
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。

※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## 【2】 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)	
	(円)	騰落率(%)
当月末	9,918	-
過去1ヵ月	9,858	0.61
過去3ヵ月	9,822	0.98
過去6ヵ月	9,812	1.08
過去1年	10,389	-4.53
過去3年	10,425	-4.86
設定日来	10,000	-0.82

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。

※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## 【3】 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	9,918	9,858	+60
純資産総額 (百万円)	12,231	12,085	+146

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	11,042	2021年9月7日
設定来安値	9,631	2022年10月21日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。

※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

## 【4】 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2022/11/15	0
2021/11/15	0
2020/11/16	0
2019/11/15	0
2018/11/15	0
-	-
設定来合計	0

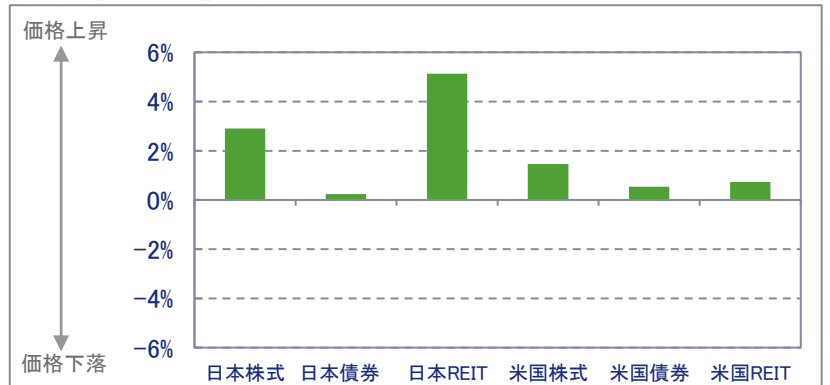
※ 1万口当たりの実績です。

## 【5】 運用資産構成比率

	ファンド	基本配分 比率	差異
日本株式	5.0%	5.0%	0.0%
日本債券	40.0%	40.0%	0.0%
日本REIT	5.1%	5.0%	0.1%
米国株式	5.0%	5.0%	0.0%
米国債券	39.9%	40.0%	-0.1%
米国REIT	5.0%	5.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	-

※ 比率は対組入マザーファンド評価額比です。

## 【6】 【ご参考】市場動向(過去1ヵ月騰落率)



※過去1ヵ月の騰落率は各市場の参考指数の騰落率であり、組入資産の騰落率とは異なります。

また、米国株式・米国国債・米国REITは、現地通貨ベースでの騰落率です。

(出所) 日本株式: 日経平均株価、日本債券: NOMURA-BPI国債インデックス、日本REIT: 東証REIT指数(配当込み)、米国株式: S&P500指数(ドルベース)、米国債券: FTSE米国国債インデックス(ドルベース)、米国REIT: S&P米国REITインデックス(配当込み・ドルベース)

## &lt;参考&gt;各資産の市場動向【日本】

## 【日本株式】

## ■ 日経平均株価



## 【4月末のコメント】

日経平均株価は、前月比2.91%上昇しました。月前半は、軟調な米国経済指標を受けて景気敏感株を中心に下落する場面もあったものの、日銀の植田新総裁が就任会見にて金融政策の現状維持姿勢を示したことや、著名な海外投資家の日本株追加投資姿勢が明らかになる中、海外投資家による大幅な買い越しが見られたことで株価は上昇しました。月後半は、年初来高値圏にあり高値警戒感が強まったことや米国地銀の信用不安が重石となった一方、ハト派な日銀の4月金融政策決定会合を受けて株価は上昇し、月間でも上昇しました。

## 【日本債券】

## ■ 日本10年国債利回り



## 【4月末のコメント】

国内長期金利は、0.06%上昇しました。月前半は、軟調な10年債入札や米欧長期金利の上昇を受けて国内長期金利は上昇しました。月後半は、日銀の4月金融政策決定会合が、金融政策は現状維持、25年度のコアCPI見通しが2%を大きく割り込むなどハト派な内容となったことから国内長期金利は低下し、月間では上昇しました。

## 【日本REIT】

## ■ 東証REIT指数(配当込み)



## 【4月末のコメント】

東証REIT指数(配当込み)は、前月比5.13%上昇しました。月前半は、日銀の植田新総裁の就任会見に向けて指数は下落する場面もあったものの、米欧銀行セクターを巡る金融システム不安の後退や、新年度入り後の地銀による購入を背景に上昇しました。月後半は、訪日外国人数が回復傾向にある中、インバウンド需要への期待が高まったことやハト派な日銀の4月金融政策決定会合を受けて指数は上昇し、月間でも上昇しました。

## 【今後の市場見通し】&lt;日本&gt;

## ■ 株式

日本株式について、製造業の回復など経済活動の再開や入国制限撤廃に伴うインバウンド需要の復調が企業業績の押し上げ要因となることが想定されるものの、円高の進展に伴う前年度対比の企業業績悪化やグローバル景気の後退に留意が必要です。また、日銀の政策修正リスクには留意が必要ながら、グローバルに見て相対的に緩和的な金融環境が継続する中、PER(株価収益率)などバリュエーションの観点で割高感も限定的と考えます。但し足許の国内企業は、他地域に遅れて業績鈍化が進行していることに鑑み、日本株は下落を見込みます。

## ■ 債券

国内長期金利については、日銀新体制の下での金融政策正常化に向けた動きが見込まれ、政策修正後は変動性の高まりを伴った金利上昇が想定されます。一方、市場の反応が一巡した後は、マイナス金利の維持が見込まれることや日銀の国債買入によって債券の需給環境が逼迫していることから金利は上昇幅を縮小すると想定されます。国内超長期金利は、日銀新体制の下での金融政策正常化に向けた動きが金利上昇圧力となる一方で、生保勢の旺盛な押し目買いニーズによって上昇は抑制され、小幅上昇を見込みます。

## ■ REIT

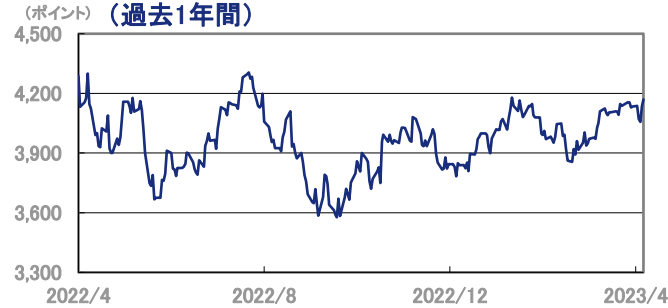
J-REIT市場は、資産構成比の高いオフィス物件について、今後は首都圏を中心に大量供給が見込まれており、需給環境の悪化が想定されます。また、景気減速による企業業績への影響が懸念される中、企業のコスト削減意識は高いため、J-REIT事業環境の更なる改善は期待し難いと考えられる一方、ホテルや商業施設など一部銘柄については国内の経済再開やインバウンド需要の復調を受けて、業績改善が見込まれます。バリュエーション面では、日銀のイールドカーブ・コントロール撤廃を織り込んだ水準である1,700pt(東証REIT原指数)、配当利回り4.5%、NAV倍率(投資口価格÷1口あたり純資産価値)0.85倍程度が当面の下値目途となることを見込みます。金融システム不安が燻る中、海外投資家や国内地方銀行など金融機関のリスク許容度の変化によって指数の変動幅が高まることも想定されますが、J-REITは横ばい圏での推移を見込みます。

■7ページの「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

## &lt;参考&gt;各資産の市場動向【米国】

## 【米国株式】

## ■ S&amp;P500指数(米ドルベース)



## 【4月末のコメント】

S&P500指数は、前月比1.46%上昇しました。月前半は、軟調な経済指標を受けた景気後退懸念の強まりから下落する場面もあったものの、予想対比較調な物価指標を受けて金融引き締め姿勢の緩和期待が高まり、株価は上昇しました。月後半は、中堅地銀における預金流出を背景に金融システム不安が再燃した一方、大手IT企業から堅調な業績見通しが示されるなど底堅い企業決算を受けて株価は上昇し、月間でも上昇しました。

## 【米国債券】

## ■ 米国10年国債利回り



## 【4月末のコメント】

米国長期金利は、0.05%低下しました。月前半は、企業景況感の悪化に加え、労働需要の鈍化や予想対比較調な物価指標を背景に米国長期金利は低下する場面も見られたものの、堅調な雇用環境や消費動向を背景に5月米連邦公開市場委員会(FOMC)における利上げ観測の高まりを受けて上昇しました。月後半は、消費者および企業景況感指標が総じて悪化したことに加え、中堅地銀における預金流出を背景に金融システム不安が再燃したことを受けて米国長期金利は低下し、月間でも低下しました。

## 【米国REIT】

## ■ S&amp;P米国REIT指数(配当込み、米ドルベース)



## 【4月末のコメント】

S&P米国REIT指数(配当込み)は、前月比0.74%上昇しました。月前半は、軟調な経済指標を受けて景気後退懸念が強まる中、信用収縮による商業用不動産の資金繰り悪化に対する警戒感の広がりが継続し、指数は下落しました。月後半は、米国経済の底堅さを示す経済指標を受けて指数は上昇し、月間でも上昇しました。

## 【今後の市場見通し】&lt;米国&gt;

## ■ 株式

米国株式について、利上げや量的引き締め(QT)のペースなど金融政策を巡る不透明感や景気減速懸念から、上値が抑えられることを想定します。企業業績については、深刻な景気後退を見込まないことから、大幅な悪化を予想しないものの、原材料価格・人件費の上昇や供給制約の影響による下押しが継続すると見込まれます。加えて、銀行の信用不安や貸出基準厳格化に伴う資金繰り悪化および借入れコストの上昇には留意が必要です。かかる中、米国株は過去対比大きな値幅をとりつつ、横ばい圏での推移を見込みます。

## ■ 債券

米国長期金利については、期待インフレ率は米連邦準備制度理事会(以下「FRB」という)の強いインフレ抑制姿勢を背景に安定推移が見込まれ、実質金利はFRBのタカ派姿勢継続および底堅い米国経済を背景に高止まりすると見られることから、当面は米国長期金利は横ばい圏で推移すると見込みます。但し中期的には、金融引き締めに伴う実体経済における金融環境悪化や相応の景気減速、物価上昇ペースの鈍化が見込まれる中、FRBの利上げ停止への転換および市場による利下げ織り込みの進展に伴い、低下基調となることを想定します。

## ■ REIT

米国REIT市場は、eコマースの一段の進展や5Gへの設備投資継続、在宅勤務の定着などを要因として用途別の成長率の差が拡大することが想定されます。指数については、米国長期金利上昇に伴うイールド・スプレッド(長期金利対比の分配利回り)で見た投資妙味の低下や不動産市況の低迷が懸念されるも、割安なNAV倍率の観点から下支えが期待されることから、米国REITは横ばい圏での推移を見込みます。

# 農林中金<パートナーズ>日米6資産分散ファンド

(安定運用コース)[愛称:コア6 エバー]/(資産形成コース)[愛称:コア6 シード]

販売用資料

追加型投信/内外/資産複合

## 商品の特色

- 主として日本株式、日本債券、日本上場不動産投資信託(J-REIT)、米国株式、米国債券および米国上場不動産投資信託(REIT)に実質的に分散投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
- 実質組入外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則としてすべて対円での為替ヘッジを行います。
- お客様のそれぞれの資産運用の目的などに合わせて、2つのファンド(安定運用コース、資産形成コース)から選択いただけます。2つのファンド(安定運用コース、資産形成コース)の各資産(資産別のマザーファンド)への基本配分比率は次のとおりとします。

	安定運用コース	資産形成コース
日本株式	5.00%	16.70%
日本債券	40.00%	16.70%
日本REIT	5.00%	16.70%
米国株式	5.00%	16.70%
米国債券	40.00%	16.70%
米国REIT	5.00%	16.70%

### ■ 各マザーファンドの特色について

マザーファンド	主要投資対象	主な投資態度
日経225 インデックス・マザーファンド	日本株式	日経平均株価(日経225)と連動する成果を目指します。
JA日本債券マザーファンド	日本債券	NOMURA-BPI総合を中長期的に上回る成果を目指します。
東証REIT インデックス・マザーファンド	日本REIT	東証REIT指数(配当込み)と連動する成果を目指します。
S&P500 インデックス・マザーファンド	米国株式	S&P500指数(当社円換算ベース)と連動する成果を目指します。
米国債券・マザーファンド	米国債券	FTSE米国国債インデックス(円ベース)を上回る成果を目指します。
S&P米国REIT インデックス・マザーファンド	米国REIT	S&P米国REIT指数(配当込み、当社円換算ベース)と連動する成果を目指します。

## お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として午後3時までとなります。(ただし、受付時間は販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。)
申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。(詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。)
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限(設定日:2018年3月20日)
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年11月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎年11月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。(年1回)
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年11月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知っている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。
スイッチング	(安定運用コース)(資産形成コース)間でスイッチングが可能です。 スイッチングとは、各ファンド間の乗換えのことで、ファンドの換金と同時に、当該換金代金をもって他のファンドの購入の申込みをする場合をいいます。 申込単位は、1口単位で、購入時手数料はかかりませんが、換金するファンドには、税金がかかります。

## ■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)

信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。

- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社) 追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

- 販売会社 : 以下をご覧ください。  
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

◆農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

ホームページ : <https://www.ja-asset.co.jp/>

フリーダイヤル : 0120-439-244(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

## 主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託(以下、「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申し込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

### ■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて実質的に株式、公社債およびREITなど値動きのある証券(外貨建証券は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、投資者(受益者)の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

ファンドの運用による損益は、すべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。

投資信託は、預貯金と異なります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」、「REIT(リート)の価格変動リスク」、「金利変動リスク」、「為替変動リスク」、などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

### ■ 当ファンドの費用

#### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。 ご購入時の手数料の上限は1.10%(税抜1.00%)です。
信託財産留保額	ありません。

#### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	毎日、純資産総額に年0.935%(税抜0.85%)を乗じた額を計上します。 毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	監査費用は、毎日、純資産総額に年0.0033%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。 毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
	有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。 ※運用状況により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

## 留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、株式、公社債およびREITなど値動きの生じる証券(外貨建証券は為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

## 指数について

### 日本株式

- 「日経平均株価」は、株式会社日本経済新聞社（以下「(株)日本経済新聞社」といいます。）によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、(株)日本経済新聞社は、「日経平均株価」自体及び「日経平均株価」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。
- 「日経」及び「日経平均株価」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て(株)日本経済新聞社に帰属しています。
- 本件投資信託は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、(株)日本経済新聞社は、その運用及び本件受益権の取引に関して、一切の責任を負いません。
- (株)日本経済新聞社は、「日経平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。
- (株)日本経済新聞社は、「日経平均株価」の構成銘柄、計算方法、その他「日経平均」の内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しています。

### 日本REIT

- 東証REIT指数の指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
- 本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

### 日本債券

- 「NOMURA-BPI総合、国債」は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は同社に帰属します。なお、同社は、対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

### 米国株式・米国REIT

- S&P500®（以下「S&P500指数」といいます。）、S&P米国REIT（以下「S&P米国REIT指数」といいます。）はS&P Dow Jones Indices LLC（以下「SPDJ」）の商品であり、これを利用するライセンスが農林中金全共連アセットマネジメント株式会社に付与されています。
- Standard & Poor's®およびS&P®はStandard & Poor's Financial Services LLC（以下「S&P」といいます。）の登録商標です。また、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC（以下「Dow Jones」といいます。）の登録商標です。これらの商標を利用するライセンスがSPDJに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが農林中金全共連アセットマネジメント株式会社にそれぞれ付与されています。
- 当ファンドは、SPDJ、Dow Jones、S&Pまたはそれぞれの関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これら関係者のいずれも、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S&P500指数、S&P米国REIT指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任も負いません。

### 米国債券

- 「FTSE米国国債インデックス」はFTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。